

✎ 取組概要

- 危機管理課の女性職員が事務局となり、複数の課から有志で女性職員を集め、さかいで131(ぼうさい)おとめ隊を結成
- おとめ隊を活用し、市の避難所運営マニュアルを作成
- 令和4年に男性職員もメンバーとして参加できるよう、要綱を改正



取組のきっかけ 『女性職員の防災意識をより高めたい！』

当時、育休中だった危機管理課の女性職員が、東日本大震災での男性主導の避難所運営による困難や、固定的性別役割分担の問題、性被害の発生やそれらに対応する自治体職員のストレスなどを知り、危機感を抱いた。

女性職員が職場に復帰し、被災者であっても災害対応にあたる自治体職員、その中でも女性職員の災害時の困り事を少しでも軽減できるよう何かしたいと提案。



“女性の防災チームを作りたい”と上司に相談したところ、協力を得られる！
他部局の管理職(女性)2名も賛同し、おとめ隊を発足。

女性だけでなく男性職員にも、女性の視点に立った防災やおとめ隊の活動を知ってもらい、職員全員の防災意識向上、また市全体の防災意識の向上を目指そう！



1 かわいい・おしゃれ・楽しい！をキーワードに、多様なメンバーを募集！

メンバー募集のための 防災ランチミーティング

- 職員組合の女性部に声をかけ、**ランチミーティングを実施**した
- ミーティング参加者の中から、おとめ隊の活動に興味がありそうな**女性職員をメンバーに勧誘**した

こんな
いいことが
あった！



- 非常食を食べながら、「**かわいい**」「**おしゃれ**」な**防災グッズ**を見せ、災害時の女性の困りごとなどを紹介！

こんな
いいことが
あった！



メンバーの人選

- 意思決定の場への参画を目指していたため、**上司に説明できる人**を候補とした
- 様々な部署**(専門職、技術職を含む)から、**年代や役職、業種が重ならないよう**声をかけ、**居住場所やライフスタイルも**様々な人を選出した

さらに
いいこと！



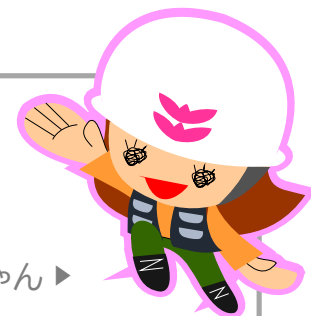
- 産休や部署異動による卒業の場合は、**後任に声をかけたり、メンバーの知り合いから推薦**したりして、毎年11名のメンバーを確保している

こんな
いいことが
あった！



「防災」というテーマで多くの女性が集まることがわかり、チームの始動につなげられた！
防災に関心がある職員を発掘できた！

おとめちゃん ▶



関心を持てるような工夫をしたことで、「やらされる」防災から「やってみようと思う」防災へ、**職員の意識が変化**した！



メンバーの備えの
コツを紹介！

活動を通して、**他の部署のメンバーと関わる**ことができ、そのつながりが**通常業務でも**活かしている！

庁内の全職員を
おとめ隊経験者に！



毎年数人入れ替えながら11名のメンバーを確保したことで、**おとめ隊の経験者は退職者を含めて40名**となり、**職員の女性の視点に立った防災意識の向上**に繋がっている！

2 市長の公認を得て、業務の一環として効率よく活動！

市長の公認団体

1. 組織の最終目標を「市長に提案すること」として地域防災計画等に反映できるように、組織の設置要綱を作成した
- 構成メンバーの選定基準を体系化し、トップに説明できるようにした

こんないいことがあった！



2. 年度末には、年間の活動を見える化し、活動報告書として提出する

こんないいことがあった！



活動の進め方

3. 通常業務との両立ができるように、活動量が偏らないように配慮し、担当を決めて個人で進められるようにしている
- 部署によって繁忙期が異なるため、4月に年間の活動スケジュールを共有し、それに合わせてメンバーも各自のスケジュールを調整する

こんないいことがあった！



市長の公認の団体として、勤務時間内に継続して活動できるようになった！



メンバー全員から市長・副市長に年間活動、中長期の目標や、来年度の目標について説明することで、活動内容に対して深い理解が得られている！



個々人の活動を無理のないものにすることで、メンバーの入れ替えがあっても継続的に活動できる！

通常業務とも両立できる！

